

## 今年度の総括

角田 英明

今年度は私にとってもクラブ員の皆さんにとっても、大きなルール改定によるマテリアル変更で悩まされる年になりました。年齢的にもマスターズが主な大会になりつつある現状で、ルールの R35 は必要ないと私は判断し、今年度よりレギュレーションに縛られないレースを楽しみましたが、規制に惑わされた選手は多かったと思います。今後のルール改定についても様々な憶測がありますが、選手生命に影響を与えないような穏やかな変更を望みたいものです。

個人的には、今シーズンはポジショニングを意識して滑走したのですが、自分の感覚以上に重心を前に持っていけないと板が上手く操作出来ないと分かりました。私は宮津会長の様な理論派ではなく、今までスキーを科学出来ませんでした。今年度は少しだけ理屈が分かった気がします。これがレースに生きたのか、久々に多くの大会で上位入賞する事が出来ました。

今シーズンで一番楽しかったのは、「おんたけ 2240」スキー場に行けた事です。私的ブログにも書きましたが、FIS 公認の 1900m のスーパーG コースでスピードトレーニングをする機会を持てた事は、

私のスキー人生の中でも大きな経験でした。「おんたけ 2240」は、昨年よりスキー場再生を手掛ける「㈱マックアース」に経営が移り、レースセンターを設けるなど選手育成に尽力した営業方針で話題のスキー場で、スーパーG 仲間の口伝えでも評判であり、一番行きたいスキー場の一つでした。山深い木曾路から更に入り込む交通の不便なスキー場ですが、支える熱いスタッフがおり、全国各地から志を持つレーサーが集まって愛されている事実を、他の営利法人のスキー場経営者・関係者の方々に知って頂きたいと切に願います。

過去 20 年余り底辺を推移したスキー場の稼働客も、幸いな事にこの 2 年間上昇傾向にあります。特に「椎坂トンネル」開通による影響で、今シーズンの片品地区の入り込み客数は 4/13 現在、片品地域全体においては前年から 5%ほど増加し、4 万人弱、丸沼高原は 20%弱増加し、3 万人弱の来場者があったそうです。そのためか逆に玉原、川場は僅かに減少してしまったそうです。

丸沼高原スキー場の成功の要因の一つに、都市部からの安価のバスツアーがある事は確かですが、新たな集客による影響を、丸沼高原をホームにするレーサーはもろに受ける形になり、少数派の我々の立場は微妙なものになっています。スキー場の現状を十分に理解

した上で、無理のない現場の声を届けられたら良いのですが・・・。

スキー場側が生き残りをかけて特化の傾向を急ぐなら、今後は、ニーズに合ったスキー場を選択する仲間も増えていく事と思料されます。

依然、レーサーを取り巻く環境は厳しいものがありますが、スキー業界全体が活性化し、我々の目指す「競技スキーの普及」に繋がる事を期待するものです。来シーズンも安全で怪我無く、会員相互の親睦を図りながら、各自の技術の向上を目指して更に練習に励みましょう。